ことばの障害の改善にアプローチしていった実践

自信をもって、学習や遊びに取り組む子をめざして

井　﨑　典　子

はじめに

発達性失語症傾向と診断されたＴ男は、構音に障害をもち、転入時には、口数が少なく自信のなさが目立つ児童であった。人と関わりたいという意欲もあり、工作等の好きな遊びには自分なりの工夫をして取り組めるほどの力をもっているのだが、緊張場面では自分の思いを表現することが特に難しく、行事の度に欠席が心配された。また、強い偏食や運動不足から体の面でもぎこちなさがあり、それが集中力や根気が続かないことへの一つの要因にもなっていた。

そんなＴ男も、小人数での落ち着ける環境の中で自分を表現する力を少しずつつけて、徐々に表情が明るくなっていくと共に、怠学傾向も改善されていった。今では不明瞭ながらもどんどん担任に話しかけ、学校生活の色々な場面で積極的な姿が見られるようになった。

Ｔ男の意欲を何より大切にし、常に共感関係を支えにしながら、少しずつでも自信を持って学習や遊びに取り組んでくれるようにと指導を続けていった取り組みについて述べたい。

１．プロフィール

(1) 生　育　歴

・昭和57年９月23日生　11歳１か月　小学部５年生男子。

・始語　３歳―「マンマ」　あまり声を出さず、おとなしい幼児期であった。

・７歳　Ｉ町立Ｈ小学校入学　２年過ごすが怠学傾向があり、ほとんど休んでいた。

・８歳　偏食が原因で膵炎になりＴ病院に入院。

・９歳　本校転入（３年生）　校医による脳波検査で全般性発作性徐波・左側後頭葉を中心とした棘徐波結合が認められる。

・家族は父・母・兄２人・姉１人の６人家族。

(2) 諸検査による実態

・津守式乳幼児発達診断では２：６～７：８歳の発達を示している。

運　動	探　索	社　会	生活習慣	言　語
5.0	7.0	4.6	7.8	2.6

（Ｈ５．10実施）

(3) コミュニケーションに関する実態

・顔面麻痺があり口腔の働きがぎこちない。口をあまり開かず話し、緊張するとヒャーヒャーとかん高い声で言う。

・伝達の機能はほとんど備えている。語いとしては名詞が多く、単語を並べて伝達しようとする。形容詞・動詞も少しは使い、助詞はわずかである。

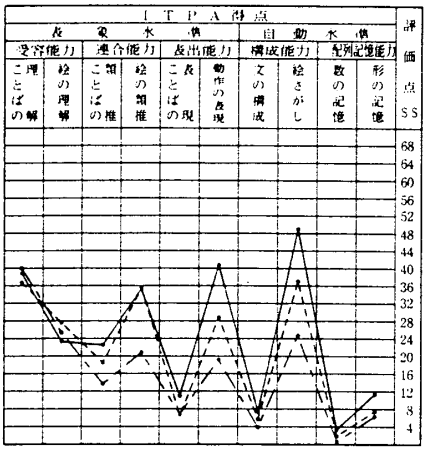
・「何これ」「なんで」が口癖で、一日に何度も問いかけてくる。

・右図のITPA言語学習能力診断検査によれば言葉の理解や視覚認知はすぐれているが言葉の表現や配置記憶能力が低くなっている。

-·-·- H.3.10.18　9才0カ月

····· H.4.11.9　10才2カ月

——— H.5.9.6　10才11カ月



ITPA言語学習能力診断検査

(4) 行動特性

・背筋の弱さもあって正座や直立が苦手。いすに座っていても短時間で姿勢を崩したり、立ち上がってうろうろしたりして落ち着かない。興味の対象が変わりやすい。

・文字と言葉とがつながらず漸く自分の名前が読み書きできるが、一字ずつばらしてみると読めないし書けない。机上の学習は拒否的であるが、道具を使って作業することは意欲を見せる。

・恥ずかしがり屋だが、大人に甘えたいとか友だちと関わりたいという意欲は強く、慣れた人や慣れた場面なら自分から進んで関わっていこうとする。そういうリラックスした場面では言葉が多く出るし生き生きした表情を見せてくれる。

2．取り組みの構想

個人目標　自信をもって　学習や遊びに取り組む子

↓

つけたい力
・粘り強く取り組む力（集中力・持続力・体力）
・身辺処理をよりていねいにする力（食事・整理整頓・衣服の着脱等）
・ごく簡単な読み書きの力（名前・数字）

↓

コミュニケーションに視点をあてた取り組み

仮説　本児は言語理解が秀れており、就学前は家庭の中でしゃべらずにすませていることが多かったが、学校生活で自分の思いをしゃべらずに相手に伝えることは難しく、そのことがT男の自信のなさにつながっていた。そこで、日課として毎日短時間の構音指導を取り入れると共に、担任との共感関係を支えにして、はっきり口を開けて大きな声で発音すると相手にとって聞き取りやすくなること、言葉が通じない時には言い換えをしたり、ジェスチャーや絵をかくなど様々な手段で相手に伝えることを指導する。そしてまず担任に自分の思いが伝わる喜びを体得させ、そこから生じる意欲や自信をもとに、コミュニケーションの対象を友だちや学部の先生へと徐々に広げていきたい。そのことで、めざす子ども像「自信を持って……」に近づいていけると考えた。

めざすコミュニケーション像　少しでもわかりやすく伝えようとする子

↓

つけたい力　・使える言葉の拡大　・少しでも聞き取りやすく発声する。
・少しは助詞を使って話す。　・言い換える力

↓

指導方針　①できるだけ本児の思いを大切にし、興味・関心のあることを手がかりに会話を広げていったり、生活経験を豊かにしていく。
②発声練習・口型指導は日課として毎日繰り返すが、心理的負担にならないように短時間にとどめ、生活の中での機会を捕えて指導するように心がける。
③机上の学習には拒否的な態度が明らかなので、できるだけ体を通して楽しんで学べるように教材の工夫をすると共に、少しずつ耐性もつけていく。
④児生徒会活動に積極的に参加させ、他学部の先生や生徒たちと関わる機会を増やす。

3．指導の実際

パソコンを使った余暇利用の実践例

T男はテレビゲームが大好きで、両親と一緒にゲームセンターに行ったり家で兄たちと遊ぶことが多かった。3組にはパソコンが置いてあり、子どもたちの余暇利用の一つとして自由に使えるようになっている。3組の教室に入った途端T男は「何これ」と質問を浴せかけてきた。実は2組の頃からパソコンが気になっていて触れてみたいという気持ちが強かったのだ。使っても良いと許可が出るとさっそくソフトをあれこれ選んでは作動させてみていた。

4月には色ぬりができるソフトと簡単な算数のソフトが気に入って繰り返し操作していた。雨などで外遊びができない時にはH子も一緒に仲良くパソコンで遊んでいた。

そのうちワープロ的な使い方に興味が移り、初めは意味もなくキーを押しては漢字に変換させたりしていたが、教師が準備した文字カードを見ながら自分の名前や住所を打っていったり、行事の後の作文をワープロで打ったりするようになった。印刷も自分の手でできるようになり、一層パソコンに向かっていることが多くなった。自分用のフロッピーディスクも何枚かできて、大切な宝物になっている。

真剣な表情

夢中です

生活単元学習「やる気まんまん宿泊」での実践

(1) 活動の様子

10月に実施された鳥取少年自然の家での宿泊学習は、子どもたちによって「やる気まんまん宿泊」と名前がつけられた。T男にとっての楽しみは、初日に湖山池で釣りをすることと初めてベッドで寝ることである。宿泊の日程が決まるとすぐに、教材室から竿を出してきて手入れをしたり、農園から餌のみみずを探してきたり、大好きなパソコンもせずに夢中で準備を進めた。この意欲を大切に、楽しく活動する中でたくさんの笑顔が見られることを願って学習を進めた。

	主な学習活動	T男の活動の様子
事前学習	・あいさつ練習 ・日程表作り ・しお作り	・退所式のあいさつを担当することになり、担任と相談しながら文面を考えた。文字は読めないが、何も持たずにしゃべると緊張が激しいので、一応作文をメッセージカードの形にして、それを見ながら言うことにした。 ・何が楽しみかと聞くと「つり」と答え、絵文字カードの中から「つり」を選ぶことができた。宿泊学習の就寝は9時とだいたい決まっているので、「何時に寝ますか。」の問いに正しく答えられ、時計の9の数字を指さした。 ・紙を二つ折りにする活動は4月に比べると角やへりがきちんと重なるようになった。「上手になったね。」「すんだら釣りの準備をしよう。」等の励ましに張り切って作業を続けた。
第一日目	・バス ・釣り ・入所式	・デジタルの腕時計を持っていて「今何時」「バス」など、しきりに時刻を気にする。バスの中では一人用の座席に座り、A男が大きな声を出すと「シー」と、遠くからでも注意をしていた。 ・昼食もそこそこに「釣りに行ってもいいか。」と何度も聞き、皆の竿をセッティングすることを条件に一足早く水辺に降りていった。「つれん。」と言いながらもがっかりする様子はなく、1時間の間に何度も餌を付け替えて楽しんでいた。 早くつれないかなあ ・促されてから「お願いします。」と言った。かけ足で部屋に上がり、自分のベットを決めて、さっそく荷物の整理にかかった。
第二日目	・掃除 ・アスレチック ・退所式	・ゴミ袋を事務室に取りに行くため「失礼します。ゴミ袋を下さい。ありがとうございました。」の言葉を練習した。実際は手助けのために持たせたメモを見せて用を足し、一言もしゃべらなかったようだ。自然の家の指導員に話しかけられても首を振るなどしてしゃべらずにすましている。 ・地図を片手に、自分で山道を選んでアスレチックコースを完歩した。道に迷ったH子たちに「おーい」と大きな声を出して指示をしてくれた。 ・あいさつを書いたメッセージカードを学校に忘れ、緊張しながらも何も見ずにあいさつを言った。時々先生の口添えを得て、予定していた3文を全部言った。「来年も来たいです。」の言葉がはっきり言えた。「心に残ったことは何ですか。」の質問に「つりです。」と答えた。

(2) 考　　察

神戸への修学旅行も含めると4回目の宿泊となり、事前学習にも見通しを持って取り組めた。シーツかけや食事の準備など、学校で実施する場合のように充分に練習はできなかったが、どうにか自分で工夫したり担任に相談するなどして、自分のことはだいたい自分ででき、応用力がついているなと感じた。担任や友だちとはいっぱい関わりたくさんの声が出ていたが、外部の人と話をすることはなく、話しかけられると目をそらしてしまうなど、まだまだ担任の仲立ちが必要である。

その他の実践（なかよし交流・児童生徒会活動）

大人相手だと緊張して堅い表情で黙ってしまうT男も、交流校との楽しい遊びの中では伸び伸びと活動できた。一昨年、湖山西小学校との交流をスタートした当初は遠慮がちな触れ合いだったが、回を重ねるごとに子どもなりの世界が深まってきて、言葉だけでなく身振りで何となく通じてしまうという場面も多くあった。本校で積み重ねてきたゲームや遊びを中心に交流を進めているので、T男も自信を持って友だちに教えてあげたりしていた。また児童生徒会の活動では、選挙管理委員、美化委員長として実行委員会に出席したり、前後期の役員選挙で仕事をしたりした。体を動かすことが得意なので、選挙の準備で机や様々な用具を運んだりすることには大変意欲を見せた。毎月の代表委員会でも担任の助けを受けながら発表したり、毎月の目標カードをなぞり書きしたりしている。他学部の先生にがんばりを認めてもらうことは何よりの励みである。

花いちもんめ
じゃんけんぽん

森のたんけん
仲良くポーズ

4．今後の課題

T男の描く絵が少しずつ変わってきた。以前は青や緑などの色を好み顔を緑色にぬってしまったりしていたが、今は明るい色をたくさん使い、画面には必ずクラスの友だちや担任が楽しそうな表情で描かれている。運動面でも自信をつけ、マラソン大会では以前なら途中で歩いたりしていたのが、今年10月には小学部最高の記録でゴールした。どうしても勝てなかったO男に相撲で勝ち自信満々の表情を見せたりした。学習や生活のいろいろな場面で積極的な姿が見られるようになったT男である。クラスや学部で培ったこれらの自信を少しずつ広げていき、他学部の生徒や先生とも関わりを持っていけるようにしたい。まだまだ言葉は不明瞭で、生活を共にしている担任でさえも理解できない場合が多くあるが、くじけず何度も言い直しをしてくれる姿を大いに認めて、コミュニケーションの意欲を失うことがないように配慮しながら、同時に構音指導も継続していきたい。思春期を迎えつつある心と体が生き生きと躍動できるような毎日の学習や生活を展開していきたいと考えている。